

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年 1月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0197400021		
法人名	有限会社 ユートピア・アットホーム旭川		
事業所名	グループホーム 金さん銀さん		
所在地	深川市音江町1丁目3番13号 (電話) 0164-25-1272		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成22年1月22日	評価確定日	平成22年3月9日

【情報提供票より】 (平成21年12月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 12 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	20 人	常勤 17人, 非常勤 3人, 常勤換算 17人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨・鉄筋 造り
	3 階建ての 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,000 円	その他の経費(月額)	管理費 20,000円 水道光熱費 11,000円 暖房費(10~5月) 8,500円	
敷金	無			
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無	
食材料費	朝食	230 円	昼食	230 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (1 2 月 3 1 日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護 1	1 名	要介護 2	5 名		
要介護 3	8 名	要介護 4	3 名		
要介護 5	1 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 85 歳	最低	75 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	深川市立病院、吉本病院、ぬまくら歯科医院
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

深川市郊外の閑静な住宅街に老人ホームとデイサービスを併設した当ホームは、明るく広い共有スペースや住みやすい居室など安心してゆったりと暮らせるように配慮されたホームです。介護計画など各種管理記録を独自に工夫するなど、熱意を持って介護に取り組む管理者の真摯な姿勢が職員にも反映され、職員同士の人間関係も良好なため、利用者へのサービスも一人ひとりに合わせて親身に行なわれています。このため、ホーム全体に家庭的で温かい雰囲気があり、利用者ののんびりとした暮らしぶりに家族は安心し、感謝をされています。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善課題については、改善計画シートの活用により殆どが改善されています。職員全員の救急救命訓練の講習受講や、今後予想される重度化・高齢化による対応の計画書作成については継続検討となっています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員がそれぞれに自己評価に取り組み管理者がまとめています。評価を行なうことで振り返りや再確認も出来、今後のケアに活かす大切な取り組みとなっています。昨年の結果についても改善計画シートにまとめ具体的な改善に取り組んでいます。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は家族代表・町内会役員・市職員・駐在所員・管理者・職員等を構成員として2ヵ月に1度開催しています。会議では活動報告や利用者の状況、質疑応答や意見交換が活発に行なわれ、ホームの運営に活かしています。行政主催の研修会にも積極的に参加し、管理者の講演依頼や行政関係の見学も受け入れ、地域ケア会議出席や運営推進会議の開催により行政職員と関わりを持つことで、サービスの質向上に活かしています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会時の報告が常に行なわれ、地域にも発行される広報誌・毎月のお便りに一人ひとりの暮らしぶりや健康情報、その月のエピソードが詳しく日付けごとに細かく記載されています。職員は常に家族との交流を図り、気軽に意見・要望等を伝えられる雰囲気作りを努めています。要望については直ちに検討し希望に添えるようにしています。また、家族にアンケートを行ない、言葉に出しにくいことを引き出せる取り組みも行なっています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	職員は地域に根ざす大切さを理解しており、利用者が日頃から地域と馴染める生活作りに努めています。町内会にも加入しており回覧板で地域情報が得られています。地域で開催される行事や祭りにも積極的に参加し、昨年の施設開催のお祭りには多くの住民の方々の参加をいただいています。利用者は近隣の青少年教育施設で行なわれているサークル活動にも参加し、利用者の楽しみのひとつとなっています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初に作成されたホーム理念に加え、職員と共に新たに作成された介護理念がホーム内の随所に掲示されています。温かな雰囲気の中で支え合い、尊厳を大切に、安心と安全を提供するという判りやすい内容となっています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念について職員は、毎朝の唱和と常時携帯することで意識付けを行ない、自分達のものとしています。全体会議や各ミーティングにおいても理念の内容を含めた説明が常に行なわれ日常のケアに活かしています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	職員は地域に根ざす大切さを理解しており、利用者と日頃から地域と馴染める生活作りに努めています。町内会にも加入しており、地域で開催される行事や祭りにも積極的に参加しています。近隣の青少年教育施設で行なわれているサークル活動にも参加し、利用者の楽しみのひとつとなっています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的は職員全員が理解しており、職員が個々に自己評価に取り組み管理者がまとめています。評価を行なうことで、今後のケアに活かす大切な取り組みとなっています。昨年の結果についても改善計画シートにまとめ具体的な改善に取り組んでいます。		

深川市 グループホーム 金さん銀さん

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族代表・町内会役員・市職員・駐在所員・管理者・職員等を構成員として2ヵ月に1度開催しています。会議では活動報告や利用者の状況、質疑応答や意見交換が活発に行なわれ、ホームの運営に活かしています。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市には問い合わせ・相談を行ったり、行政主催の研修会にも積極的に参加しています。管理者の講演依頼や見学も受け入れ、地域ケア会議出席や運営推進会議の開催により行政職員と関わりを持つことで、サービスの質向上に反映出来るように取り組んでいます。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時の状況報告は常に行なわれ、地域にも発送されている季刊広報誌や、毎月のお便りには、個人別に暮らしぶりや健康情報、その月のエピソードが詳しく日付けごとに細かく記載されています。笑顔の写真と合わせ興味深い内容となり家族から好評をいただいています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は来訪や面会を通して家族との交流を図り、家族が気軽に意見・要望等を伝えられる雰囲気作りに努めています。要望については直ちに検討し希望に添えるようにしています。アンケートを行ない、言葉に出しにくいことを引き出せる取り組みも行なっています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の定着については日々努力しています。ユニット職員を固定化することで、顔馴染みによる信頼関係でケアに努めています。離職がやむを得ない場合は、ホーム採用研修マニュアルを基に2週間の計画で引継ぎを行ない、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は人材育成の重要性を認識しており、職員の経験や習熟度に合わせ、外部研修に参加しています。終了後も会議等で職員に報告が行なわれ共有も図られています。内部研修も積極的に行なわれており、職員は働きながら学びの機会が得られ、個別対応や柔軟な支援の実践力を身に付けています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政主催の研修参加や、グループホーム協議会研修、地域ケア会議等を通して交流の機会があり、他ホームとの情報交換によりサービスの質を向上させていく取り組みをしています。地域にはホームが少なく、職員の質の向上のためにも管理者は、職員の要望もあり他ホームとの交流の機会の検討を行なっています。		
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族にホームを見学していただき、雰囲気確かめていただいています。体験利用も積極的に勧め、入浴の体験や昼食を一緒にすることで、馴染める環境作りに努めています。その後利用者や家族と面談し、希望や要望を細かく聞いて、安心して入居出来るようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者一人ひとりの経験や得意なことを見極め、役割を發揮できる場面作りの支援が行なわれています。職員は共に暮らすことで生活の場を意識し掃除や洗濯も一緒に行ない、生活の知恵や味付けを学び、昔話等を一緒に聞く事で共感し、利用者と一緒に支え合う関係を築いています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	独自に作成した情報収集用書式を活用し、家族へ記入の依頼、利用開始前・開始後の生活情報や心身の状況を収集しています。入居後も家族の意見や、暮らしの中から利用者の希望・意向の把握に努め、関わりには意欲的に取り組み利用者の生活支援に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期開催される会議で、積極的に意見交換が行なわれ、計画作成者はそれをまとめ次回の計画作成につなげています。日報の記載方法も介護計画のサービス内容に連動するよう努めています。家族から出された意見を反映し、利用者本位の計画作成に努めています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的に3ヵ月に1度の見直しを行なっています。各ユニット会議において経過記録や職員の意見、家族の思いを考慮し、評価を行ない新しい計画書が作成されています。また、利用者の状態変化に応じて、その都度見直しを行ない、作成後には家族に直接説明し確認後に同意のサインをいただいています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時の送迎や付き添い、利用者の希望に応じ買物や散歩、ドライブや外食・温泉入浴、理美容利用時等要望に応じた支援を柔軟に行なっています。併設の施設のホール利用で催し物への参加も行なっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員は利用者の希望する医療機関への通院に同行し、主治医への状態の報告、聞き取りを行ない家族にも報告しています。安定した状態の時には薬取りなどの支援も行ない、適切な医療が受けられるように対応しています。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療連携加算体制はありませんが、重度化や終末期に向けた細かい指針が用意されており、家族と方針を共有し同意をいただいています。関係医療機関と連携を取ることで、今後予想される看取り・重度化・終末期の場面でも適切に対応できるように検討されています。	○	看取りに際してのケアのあり方は、今後予想される重度化・高齢化のもとで家族や職員が安心できる個別支援が必要です。ケアの具体的内容について看取りの書式にまとめ、医療機関と職員間での共有方法、対策など早い時期の取り組みを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りや自尊心を損ねることのないような声かけや対応を心がけています。また、写真の掲載や名前の表示、書類の取り扱いや管理、個人情報の取り扱い、プライバシー保護については、今後も徹底するために検討されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や生活歴を尊重し、その人らしい生活となるよう支援しています。趣味の継続、アクティビティの充実、ホーム内交流で各ユニット合同食事会開催、外出支援など今後も利用者の要望に沿った一人ひとりの生活支援の継続が検討されています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームで収穫された野菜を盛り込んだり、祝い事に特別食を設けるなど変化をつけています。職員も同じ食事を会話を楽しみながら、あるいは介助しながら摂っています。また、外食の機会を設け、いつもと違う食事が、利用者の楽しみの一つともなっています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制となっています。入浴が生活の中で楽しみの一つとなるよう、利用者の希望や状態に合わせ、安全な入浴支援を行っています。友人と一緒に入ったり、職員と近くの温泉に行ったり、また体調の変化により柔軟な支援体制も整っています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の前後の片付け・掃除・菜園作り・ドライブ・帰省・青少年育成施設でのサークル活動参加で、趣味や役割を持てるよう支援しています。手芸や切り絵など能力を引き出せるように力を入れ、特にその人らしく生活できるよう支援しています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	必要品の買物や帰省、近所の散歩・菜園作りなど、外出の機会を多く作っています。専用車両の配備により、外食やドライブ・観光・温泉入浴など柔軟に対応しています。今後も、より多くの外出の機会が持てるように検討が続けられています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけることの弊害を十分理解しており、日中は施錠していません。利用者が外出する様子が見られる時はさりげなく声かけし、一緒に出かける等で利用者の安全面に配慮した対応となっています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急時・災害時のマニュアルが整備され、消防署の協力で年2回の避難訓練を行なっています。想定される場面での避難対応、通報訓練、地域への協力体制作りも整備されています。職員は、利用者の安全が確保できるように常に心がけています。	○	計画的な訓練や、想定される避難場面が実践されていますが、救急救命講習の受講やAEDの使用説明研修が一部職員にとどまっています。今後は消防署への協力依頼により、職員全員が講習の受講が出来る取り組みを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の食事・水分摂取量を個人別に記録しており、職員は情報を共有し体調管理を行なっています。メニューは外部宅配業者で作成しています。食事内容については、利用者の病状や摂取状況に応じた減塩、とろみ、お粥、きざみ食などの対応をしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は明るく開放的で季節を感じる事の出来る装飾等も工夫され、利用者にとって快適な居場所作りに配慮されています。利用者作成の展示物で潤いを作り、語りのきっかけとなっています。採光・暖房・湿度等も適宜調節され、気になる臭いもなく、一日を過ごす憩いの場となっています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は利用者のプライバシーが尊重され、使い慣れた箆笥やベット、仏壇が持ち込まれ、利用者が安心して暮らせるような工夫をしています。以前の生活と変化なく、精神的負担を少なくする配慮がなされ、衣類についても季節毎入れ替えられています。		

※ は、重点項目。